

今回から、「介護シリーズ」として、6回にわたり介護で日頃悩んでいることの対応などをお伝えします。

今回は「男の介護」です。かつて介護は主に女性が支えていましたが、今や男性が3割を超えています。弱音を吐けず、苦しさを抱え込んでしまいがちな男性が介護に向き合う時は、どんな点に注意すればいいのでしょうか。

男の介護

在宅医療
とはかしこい有料老
人ホームの選択認知症との
関わり病院退院後
の行き場所エンディング
ノートとは

① 男の介護では・・・

男性は、介護を仕事の延長ととらえ、完璧にこなそうとする傾向にあります。他人に迷惑はかけられないと思いがちで、なかなか弱音が吐けず、孤立を深めていくケースが後をたちません。

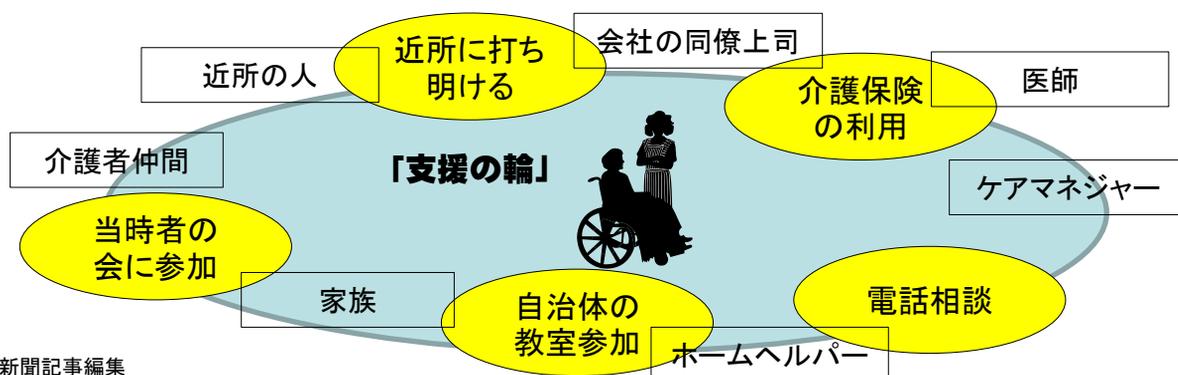
その結果、会社を辞めてしまう人も相当多く、'06年の総務省の調べでは、1年間に25,600人の男性が介護や看護で仕事を離れております。また、介護状態の中、毎日の閉塞した生活を送ることでいらいらがつのり、自分の親に暴力をふるったりすることになります。何と暴力の69%は男性という調査結果もあります。

企業法人に働く人は、介護休業規定を上手に利用しながら無理のない生活を過ごしていただきたいものです。

② 男の介護 心得5か条

- ① 自分の時間と健康を大切に、相談できる仲間とともに介護の道を歩んで行こう
- ② 自分だけでできないことは、頼る勇気を持つ
- ③ 介護で苦しんでいるのは自分だけでないことを忘れず、これまで生き抜いてきた己の力を信じよう
- ④ 老い・病に対して無力であり、死を考えることは愚かなことだと認めよう
- ⑤ 介護の基本を理解したうえで、この世に完璧な介護などは存在しないということを中心にまとめておこう

③ 抱え込まないための「支援の輪」



朝日新聞記事編集

●お問合せはこちらまで

info@kitawel.com

Welfare

北村 社会福祉士事務所(北村 弘之)
〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目7-7
TEL:045-924-1777 <http://www.kitawel.com>